

ほくは、アートディレクターという立場で多くの世界的なカメラマンに撮影を依頼し、一緒に仕事をしてきました。その一方で、あくまで趣味レベルですが自分自身も写真を撮り続けてきたんです。写真を撮る何かに使おうという意識はなく、ずっと撮り続けてフィルムに一度自分でコンセプトを立てて見つめなしてみたいという思い立ち、編集作業をやってみました。

するとアメリカで撮った子供たちの笑顔、どこか不都合がされるのを見失いました。それは、10分ほどはパラスの中で出会った子供たちの様子や撮った様子を写したのですが、彼らの屈託のない笑顔はほんの数分の中にも幸福があるとうとうに気づいたので、それを、30枚ほどの組写真として本にしました。それが一連の「メリープロジェクト」のきっかけだったんです。

「屈託のない笑顔は人を幸福にする」というコンセプトを「メリー

一瞬の屈託のない笑顔が 人を幸福にしてい

(Merry)」というタイトルにして様々なことをやろうと早速活動は始めてきました。そこには日本だけでなく世界中の自信を失っているときに、何か元気でポジティブで未来へ繋がるという思いが湧き出ていたんじゃないかという思いがあったんです。

そこで「21世紀をハッピーにするのは、屈託のない少女たちの笑顔」というコンセプトで、原宿に集まる少女の笑顔とメッセージを収録していき、それをカラー出力でプリントアウトしてポストターを中心し、ラフォーレミュージアム原宿を中心に貼っていったんです。それがメリープロジェクトでした。その展覧を見たロンドンのデザイナーサラリーの人が興味を持ち、日英同盟締結100周年にあたる今年、ロンドンと原宿でアート・イベントとしてメリープロジェクトが同時開催されたんです。両会場をインターネットで結んだり、メッセージをリアルタイムにインスタレーションしたり、新しい試みをいくつも

の物体にみえてくるんですから。現在、日本とロンドンをあわせて三千人近く撮影していますが、全部T2で撮っているんです。今やこのカメラはほとんどの機械とは思えない存在で、撮りたいときにハードでシャッターを切っているみたいで、まるで自分の心のカメラみたいなんです。

ラフォーレ空間は常に動いているんです。今という時は今しかないわけですから、「今」が過ぎていかないうちに撮りたい、という意識がほくにはあるんです。出逢った人の心はほくの心がパフと接しその瞬間を撮りたいんです。

その一瞬を捉えるには、ほく自身も



CONTAX T2



水谷孝次1951年、名古屋出身。(有)水谷事務所代表取締役・広告系のアートディレクターとして第一線で活躍。ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ展賞受賞歴多数。

導入しました。9月13日からは神戸オーガスタプラザで新しいメリープロジェクトが始まりました。今回のプロジェクトを展開するにあたり、カメラの選択には悩まされたのですが、ほくとしてはどうも無理があるのと。いろいろ試しの結果、自然な笑顔を示すためには距離感とコミュニケーションが大切ですから、大きなカメラではどうしても無理があるとおもったんです。相手に威圧感を与えず、ほく自身が透明人間のような存在感をなくすなければ、屈託のない笑顔は出てこいと思いついたんです。そうすると、まずい距離感でコミュニケーションをしながら撮れるカメラ、しかもオートフォーカスの高い作品ができるカメラとなると、コンタックスT2だったんです。

たしかにポトレットの場、大型カメラにくらべコンタックスは情報量という意味ではリアリティに欠けるかもしれませんが、今回の場合、それでもおかつ大型カメラの画質と変わ

よりビュアな状態に精神と体調を整えないといまうまいかなんかという感じが、写真自身の魂かもしれない。メリーな写真が撮れないときは、自分の精神状態や体調が悪いんです。ということでは、メリーな写真を撮り続けること、ほく自身がメリーになるということなんです。ほくたちは、歳を重ねていく現実を直面することに精神や肉体的な消耗さ、かつて持っていたメリーな部分も失っていきそうです。ほく自身で、そういう自分がこのプロジェクトで、屈託のない笑顔に接すれば接するほど元氣になつていくのがわかんなくて。そういう意味で、このプロジェクトは、ほく自身の「再出発」というところがあるんです。くたけかけた自分をもう一度元氣にしてくれる、自分を奮い立たせてくれる、そんな位置づけでもあるんです。グラフィックデザイナーの主な歳は20、30代で、40、50代にもなる、肉体的にも精神的にもあと何年くらい頑張れるだろうか考へるようになるんです。そうした将来への不安、疲れた自分から再生してくれたいのがメリープロジェクトなんです。そういう意味からも、自分探しや再出発を願っている人にとっても写真はいいきっかけになるかもしれない。きつと気づかなかつた何かを発見できるかもしれません。(一)